

学校関係者評価 報告書

評価日時：令和6年2月22日（木）9：00～12：00

評価委員

- 委員長 当校非常勤講師
- 委員 元副院長・看護部長、看護教育経験者
- 委員 卒業生、看護部長
- 委員 推薦指定校 高等学校校長

学校出席者：教育主事 教員

- 議事：1) 教育主事および教員より以下について説明
- ・昨年度の学校関係者評価を受けての取り組み
 - ・学校目標に対する取り組み、今後の課題等
- 2) 今後の課題等についての意見交換

【目標1】主体的に学ぶ力を育成できる教育実践力の向上及び教育環境の充実

- ・ICTやシミュレーターを活用し、アセスメント力を強化
- ・協同学習、アクティブラーニングを積極的に導入
- ・事例展開等に、オンライン教材（医学映像セレクト、CKS ナーシング）活用
- ・病院との調整により実習に使用する血圧計やSpO2モニター等の物品の整備
- ・学校のSWOT分析及び取り組みを国立病院機構本部へ提出、学校継続の回答
- ・看護師等養成所運営費補助金について11月に発出された厚生労働省から兵庫県への通知、1月に補助金の獲得をするため、兵庫県庁医務課に学校長、事務部長、教育主事が出向き交渉。現時点で回答無。

【目標2】国立病院機構及び地域に貢献できる優秀な人材の確保

- ・今年度のNHO就職率及び県内就職率は70%になった。
- ・6月1月の2回、対面で卒後1年目のホームカミングデイ実施、臨床と情報共有。
- ・卒後1年目の個別面談を5名実施。

【目標3】適切な安全管理の推進

- ・感染拡大等の問題はなかった。

【目標4】働き方改革を踏まえた業務の改善

- ・超過勤務の減少、勤怠システムの導入、年休取得の増加

【評価委員からの評価】

【目標1：主体的に学ぶ力を育成できる教育実践能力の向上及び教育環境の充実】

- 1) 看護を科学的に実践できる能力の育成について、結論をどう導くかという論理性を強化していく。
- 2) 自己点検・自己評価表は全体的に細かく、具体的にチェックできている。着実に改善は進んでいるので自己評価をするだけでなく、学校をどう発展させようとしているのか、独自性を明確にしていくことが望まれる。

【目標2：国立病院機構及び地域に貢献できる優秀な人材の確保】

- 1) 卒後も学校は相談にのってもらえるということが伝わっていないことも危惧される。卒後のサポートという目的のためには、教員が臨床に行き、交流、支援することも可能である。
- 2) 国立病院機構関連への就職率が減少傾向である。学生が自分で判断して実践する楽しさを実感できるようになること、生涯教育につながるような支援が必要である。
- 3) ホームページについて、デザインや設計の検討が必要である。学校長や教育主事の顔写真を載せるなど、受験生や学生、保護者、卒業生などが学校や教員を身近に感じることのできるホームページを目指してもらいたい。

【目標3：適切な安全管理の推進】

- 1) 災害関係は内容を丁寧に見直しされている。

【目標4：働き方改革を踏まえた業務の改善】

- 1) 会議録は印刷し学校長まで回覧をしているが、管理日誌に確認の印鑑を依頼する際に、学校長に口頭で伝える方法もある。

【総評】

前年度の助言を踏まえた修正がなされており、様々な取り組みをされていることが見える。地域の役割やニーズをとらえて、学校や教員でたくさんの取り組みや努力をしていることは素晴らしい。今後は、現状維持を望むのではなく、挑戦する姿勢を見せて欲しい。